

迷宮の奥で変わり果ててゆく肉体と精神。冒険の果てに待つのは……

# サマリフェイス プリンセス

～発情快楽器官へと改造された勇ましき王女～

フルカラー  
39P

こんな所  
救世の姫たるアタシが  
ぶっ潰してやるわ!!

ここが  
噂の悪の  
ダンジョンね!!

触手生物

うん……



古代王国の  
遺構  
『墓所』  
グレイブ

仕掛けや魔物に  
満ちた  
危険な迷宮だが

古代の秘宝を求め  
探索に向かう者  
たちは多い

亡国の王女が  
行方不明に…とか  
異形に変貌した  
女騎士がいる…等

墓所には数多くの  
不穏な噂があるが  
金や名声を求める  
者は尽きない

そんな  
危険な場所に

あらたなる  
イケニエが  
またひとり…

くっ！

誰かっ  
誰かいないの？

ギョッ

ギョッ

くっ...

ちょっと聞いてる？  
アタシを誰だと思ってるの!!

ギョッ

じゅん

じゅん

ファルゼ王国の  
王女に  
こんなことして

ただで済むと  
思わないほうが  
いいわよっ!!

ファルゼ王国  
第2王女  
カサンドラ

聖剣に選ばれし  
救世の姫(自称)

…あくまで  
自称である

# サマリコイヌ プリンセス

～発情快楽器官へと改造された勇ましき王女～

やれやれ  
久しぶりのイケニエは  
さわがしいな

だっ  
誰よっ!?

ククク…

私は  
グレイク  
グレイキパー  
この墓所の墓守

ポウ…ッ

最下層にようこそ  
久しぶりの来客だ  
歓迎しよう

墓守…  
あなたがあの…

ようやくの  
おでましね!

さあ…  
この拘束を解いて  
アタシと  
勝負なさい!

ふむ…?

ガッ  
チャッ!

威勢よく  
私の墓所に  
突っ込んできて

ここが  
噂の悪の  
ダンジョンね!!

こんな所  
救世の姫たるアタシが  
ぶっ潰してやるわ!!

そんな大言を  
吐くからどれほどの  
者かと思えば…

入った直後の  
トラップを  
素直に踏んで

んがっ

そのまま  
気を失って  
あっさり捕まった

愚かな娘が  
私と勝負…ねえ

うるさいっ!

う  
う  
ううっ

んがっ  
んがっ  
んがっ

んがっ  
んがっ  
んがっ

そもそもそれは  
聖剣ではないね  
ただの剣だ

世間知らずが増長し  
私の墓所に来たか：  
ふむ、まあいい

スッ  
なら私と勝負をする  
資格があるのか  
見せてもらおうか

しっ  
資格…？

なっ…

装備が…  
なんでえええ  
ええ——っ!?

ホウッ  
ギギッ  
ギギッ  
そう騒ぐな  
キミの身体を  
少し借りるだけだ

これは私が  
作り出した  
触手生物の幼体だ

ひっ...

ホトッ

キィッ

これからキミの  
身体でこいつらを  
育てて貰う

その際  
寄生した母体を  
改造する習性がある

それは人体に  
寄生するとおよそ  
一日で成体へと  
成長するのだが

ねえっ何言ってるの!?  
身体で育てるって  
どういう...

例えば乳房に  
寄生したものは  
乳房を肥大させ

ニユル

キィ?

んゝんゝん!!

膣や子宮やアナルに  
寄生した場合は  
それらを  
拡張したりな...

ちよっ...

そんなトコに  
入ったら...っ

ニユル

んゝんゝん...

んゝんゝん

くうっ…このっ…  
一体何の目的で  
こんなことを…

カッ  
カッ

ざっ  
ざっ

にゅっ

くっ  
くっ

じゅっ…

じゅっ…

身の程しらずにも  
挑戦しに来たキミに  
その資格を与える  
ためだと

さっきも  
言っただろう？

成長仕切る前に  
墓所から脱出できれば  
その触手は消滅する

だが  
もし間に合わずに  
成長しきった場合…

極太の触手たちが  
穴という穴から  
這い出てキミを  
犯し尽くすだろうな

なっ…

ここから  
外まで  
だなんて…

そんなの  
間に合うわけ  
ないじゃないっ

ボウッ

ふむ  
確かに一理ある  
最下層だしな

だが安心したまえ  
これは墓所内の様子を  
映したものだ

ここにいる  
魔物たちの精で  
寄生部分を満たせば  
触手の成長が一時止まる  
その間に先に進むといい

魔物は常時  
発情状態にしておくから  
求めには喜んで  
応じるはずだ

びん

びん

なっ…

かあ？

寄生させてる  
体内を精で  
満たすって…

それってつまり  
魔物と…  
その…あの…

そんなこと  
できるわけ  
ないじゃない！

だがそうしなければ  
ほらそろそろだぞ

ちゅ…

えっ…

ああっ…

アタシの  
胸がっ…!?

改造はすでに  
始まっているぞ

もちろん  
どの道を選ぶかは  
君の自由だ

くっ…  
勝手な事を…

私はじっくり  
観戦させて  
もらおうとしよう

あっコラ

待ちなさいっ!

ゴゴゴ





誰が魔物などと  
まぐわって  
やるものかっ！

期限前にここから  
抜け出してやるっ！

…ハッ

いいだろう  
その勝負  
受けてやる…っ！

アタシはこうして  
出口を求めて  
歩き出したん  
だけど…



体が重い…

ホタ  
ホタッ

…あつい

発情した  
魔物から  
隠れながら  
進んできたけど…

胸も…おなかも…  
はあっ…どんどん…  
重くなるし…んっ

くそっ…

体の…改造が…  
はふうっ…  
とまらない…っ

アソコも  
おしりの穴も…  
ふううっ…緩んで…

それだけなら  
まだ耐えられる  
…のに

さっきから  
ずっと  
この体が…っ

はあ…

んん…

カクッ

ズン  
ズン

ゴ  
ゴ

ゴ  
ゴ

ト  
ト

ト  
ト

ヒキッ

くは

んんん

ぬち

カクッ



もう我慢  
できないっ!  
アソコがうずいて...

んっ...  
ふあああんっ!!

身体の火照りが  
止まって  
くれないっ!!

ズクズク...



このままじゃ  
アタシ...っ

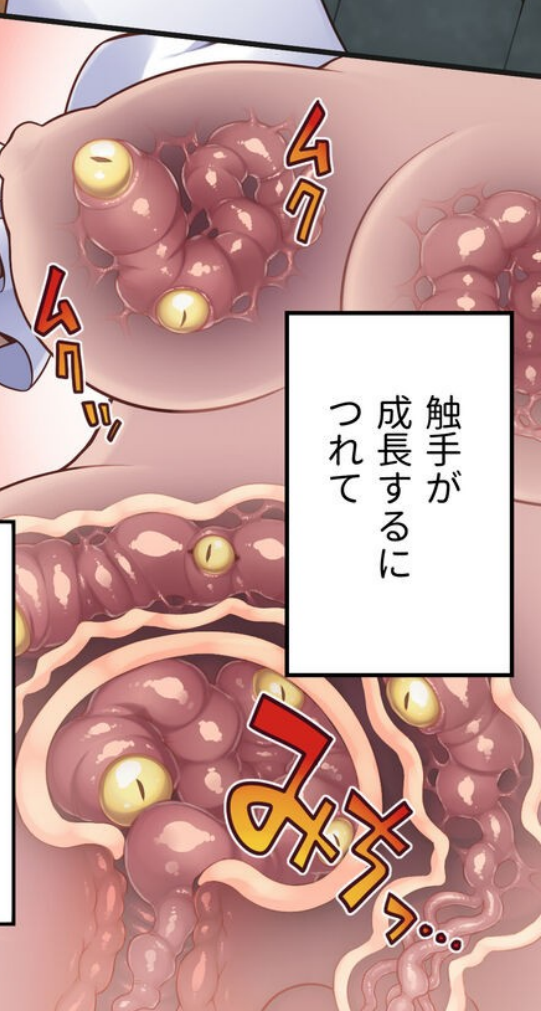
メッ

はあん♡

全身が  
すごく敏感に  
なっっていく  
みたいで...

触手が  
成長するに  
つれて

おやあ...





ガク  
ガク  
ガク

あ...あ...っ

そんな...

フヒヒッ  
そりやいのや

殺しちゃダメだが  
犯して中出し  
しちゃうって  
いいからいいぞ

グニグニ...  
コイツ  
じゃないか?  
やらせて  
くれる女って

オーク...!!

ズ  
ズ  
ズ

なんて大きさ...  
こんな汚らしい  
モノ...  
ダメ...ダメなのに...



身体が  
こいつらのソレを  
欲しがってるっ...

でも...

オークとなんか  
そんなこと  
したくない...  
はずなのに...っ

お...  
お前たち...

ひく  
ひく

ズ  
ズ  
ズ

ト  
ト  
ト

でも…そう  
これは脱出  
するまでの間に

触手の成長を  
止めるためだもの  
仕方ないわよね

このアタシ…  
ファルゼ王国  
第2王女の…

クツクツクツ  
それはありがてえ

こ…光栄に  
思いなさい

アソコと  
おしりを  
犯させてあげる

エ…エ…エ…  
おしりを  
犯させて  
いただきます

王女さま

ぬちゅ

くちゅ

くはぁ

トロ

カッ





何コレ何コレ…  
初めてだから  
少しは痛いと  
思ってたのに…

お…お…お…

快感でおかしく  
なりそうっっ  
コレが改造  
されてるって  
コトなの…?



お尻の穴なんて…  
自分で触れたことも  
なかったのに…っ



あ…があっ…  
大っきいのが  
入っちゃってる…っ

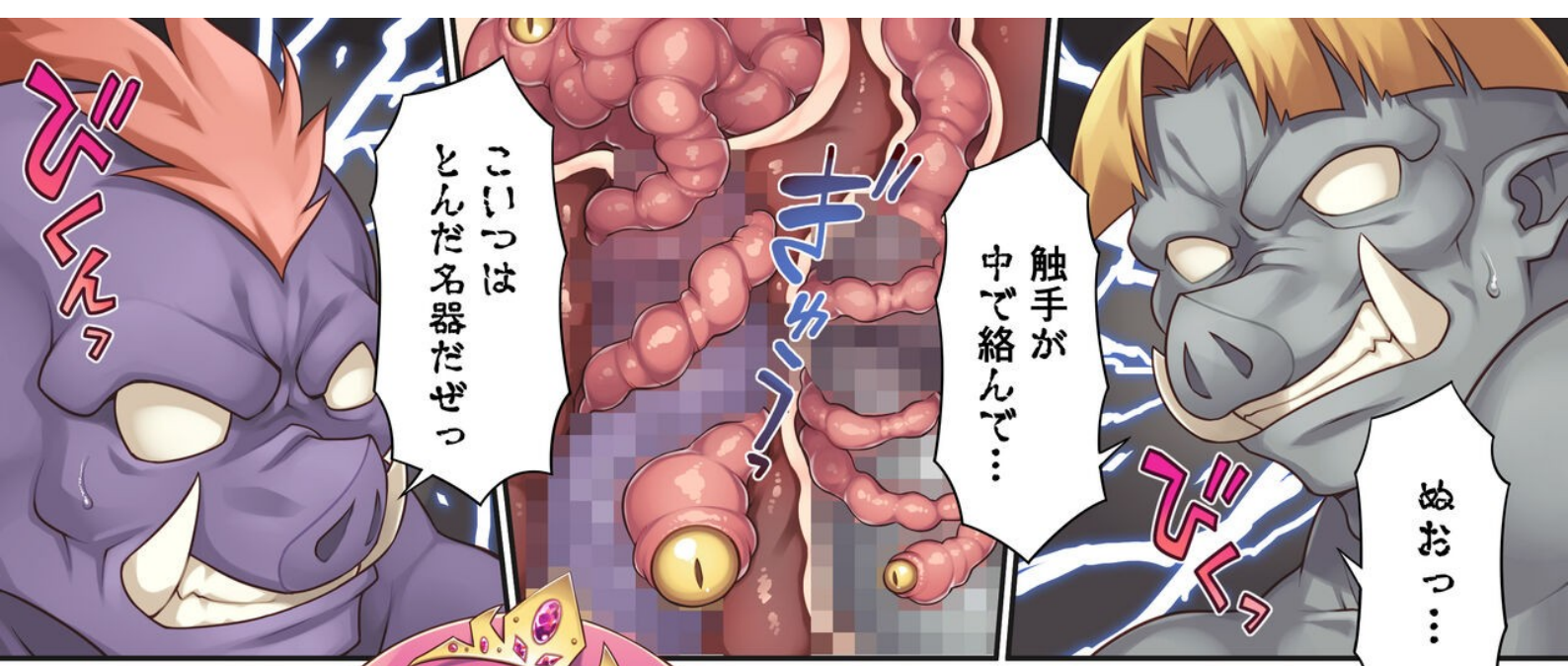
おなかの中の  
触手たちを  
押しつぶしてるうっ!

ホッ

ひび

ズッ!!

ズッ!!



こいつは  
とんだ名器だぜっ

触手が  
中で絡んで…

ぬおっ…



ひまき♡

ふあっ…  
あああああっ!

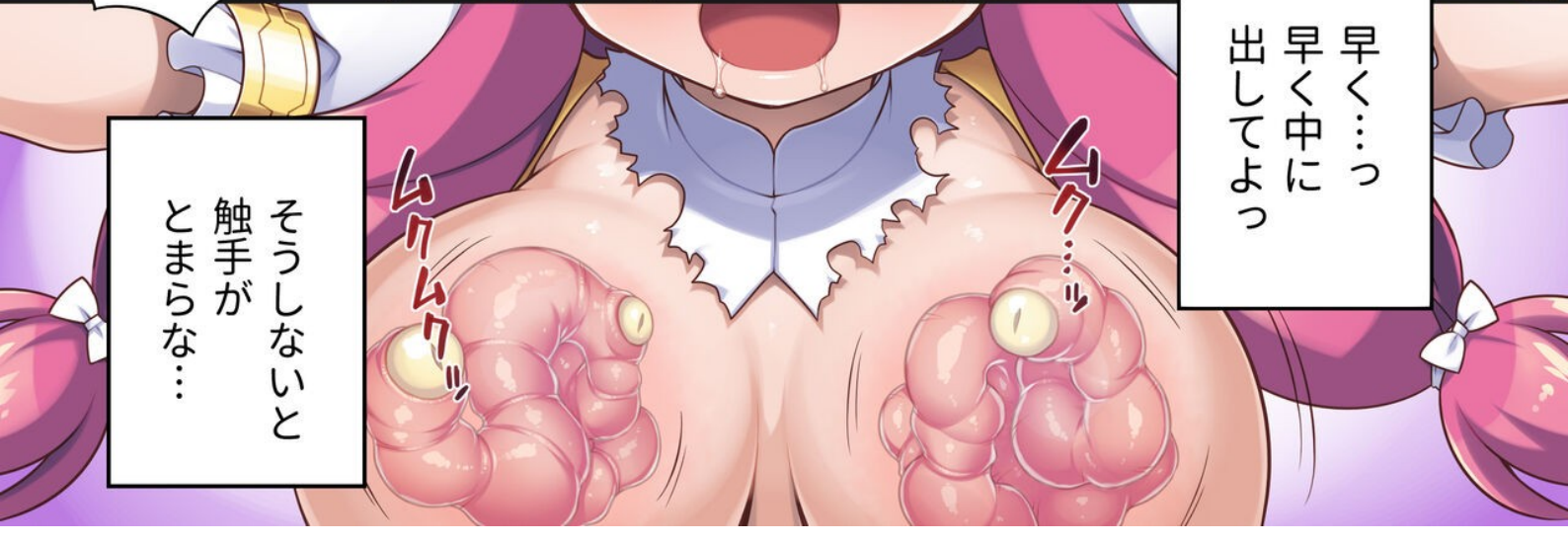
ひまき♡

アタシの中で触手たちが  
オークたちのモノを  
しごいてるっ

刺激でおかしく  
なるううううっ!

おあん♡

ドズッ



早く…っ  
早く中に  
出してよっ

そうしないと  
触手が  
とまらな…

ムクムク

ムク…

なっ…

また  
胸がっ…

大きく  
なってる…っ

そ…そうだ  
胸の中の触手を  
忘れてた…

こんな所に  
どうやって  
精を満たせば…

ギギッ

ギイッ

ズボンッ  
ズボンッ  
ズボンッ

ま…  
待って

待ちなさい  
あなた達っ

何だ？  
おっぱいが  
寂しいって？

ズルルッ  
ズルルッ  
ズルルッ

にゅるんっ

ギョッ

このままじゃ  
アタシ…  
胸だけ触手を  
止められないっ

ちがっ…  
しい

仕方ねえ  
なあ…

いるんだろ  
妖精ども  
出てこいよ

キムッ

ボクたちに  
何か用？

はいはい  
いますよ

この王女サマが  
おっぱいにも  
入れてほしいとさ

えっ  
いいの？  
わーい！

えっ…何？  
こいつらが  
妖精…？

キョッ

ちよっ…待っ

ボクたちも  
なんだか  
ムラムムして  
困ってんだー

あっ…  
あああっ！

お姉さんの  
おっぱい  
借りちゃうねー

ゾッ



スゴーイ  
お姉さんの中  
あったかーい

ズンズン...

本当だ  
ボクらのメス  
なんかより  
ずっといいぜ

ズンズン...  
ズンズン...



なっ  
なんなのこれ...  
妖精サイズ  
とはいえ...

胸にアレを  
挿入されるなんて  
おかしいのに

何でこんなに  
気持ちいい  
のおっつ

こんなっ

こんな...っ

ダメえっ  
おかしくなるっ



ジュジュッ  
ジュジュッ  
ジュジュッ

ジュジュッ  
ジュジュッ  
ジュジュッ

あ...あ...あ...  
は...は...は...  
あ...あ...あ...

ジュジュッ  
ジュジュッ  
ジュジュッ

きもちよすきさう  
っっっっっっっっっっっっ...

ん...ん...ん...  
あ...あ...あ...  
あ...あ...あ...

コッポッ

ジュジュッ  
ジュジュッ  
ジュジュッ

ジュジュッ  
ジュジュッ  
ジュジュッ

止まっ  
て...  
っ...

あ...  
あ...  
...

体内の触手の  
動きが...

キ...

ジュジュッ  
ジュジュッ

ジュジュッ  
ジュジュッ

ジュジュッ  
ジュジュッ

ジュジュッ  
ジュジュッ

ジュジュッ  
ジュジュッ

じゃあな  
王女さま  
気持ちよかったぜ

く…  
屈辱だわ…っ  
いくら触手の  
せいとはいえ

この先も  
頑張つてね〜♪

魔物相手に  
こんなに  
乱れてしまう  
なんて…

でもおかげで  
触手の成長も  
止まってるみたい…  
これなら…

急いで…

出口を目指さ  
ないと…

それからも  
アタシは  
墓所を彷徨い  
続けた…

ヨロヨロ…

その道中でも  
触手が成長  
するたびに

おんぐんぐん...

グヒイイ  
イイツッ!!  
デルゾオ!!

ひいひい  
いっくんくん!!

イッパイタシテ  
ハラマセテヤルゼ!!

アタシは  
魔物たちと  
何度もまぐわう  
はめになった

グッ  
グッ  
グッ

グッ  
グッ  
グッ

グッ  
グッ  
グッ

じゅんじゅん

じゅんじゅん





はあああっ 太いのっ…  
すごっ ほああっ  
はっ あうううっ!

ひゅっイッ…♡イクッ♡  
イクイクイク…♡

ドッ!  
ドッ!  
ドッ!  
ドッ!  
ドッ!

ドッ!  
ドッ!  
ドッ!



もちろん  
魔物の精で  
触手の成長は  
一時的に止まる

グウツッ！  
ウウツッ！  
グオオオオオンツッ！

あっ  
ひゅっ…  
ひらっ ふらっ  
ふうふうふう…

だが止まるだけで  
改造された身体は  
戻りはしない

結局触手は  
成長を続け  
そして…





—そして  
遂に

トキチャッ

トキチャッ

はあっ…

もう…  
少しで…  
出口…っ

出られさえ  
すれば…  
この体も…っ

ゴッ

ゴッ

ズルチャッ

ズルチャッ

お尻も…  
拡がりすぎて…  
ずっと  
たれ流しだし…

腸内も子宮も  
触手で  
ギチギチで…

今にも  
這い出して  
きそうだけど…

みぢっ

ギギッ

ギギッ

く

はぁ…

ズルチャッ

ここから  
出さえすれば…

あの出口に  
たどり着きさえ  
すれば…

アタシは…  
戻れ…

カッ

コン!

おおっと

え…

フユイ…

済まないな…  
うっかり転移罫を  
外し忘れていた  
ようだ

何心配するな  
帰り道が半日ほど  
伸びるだけだ





触手たちが…はぁあっ…  
アタシの中から  
出ようとして…さっ

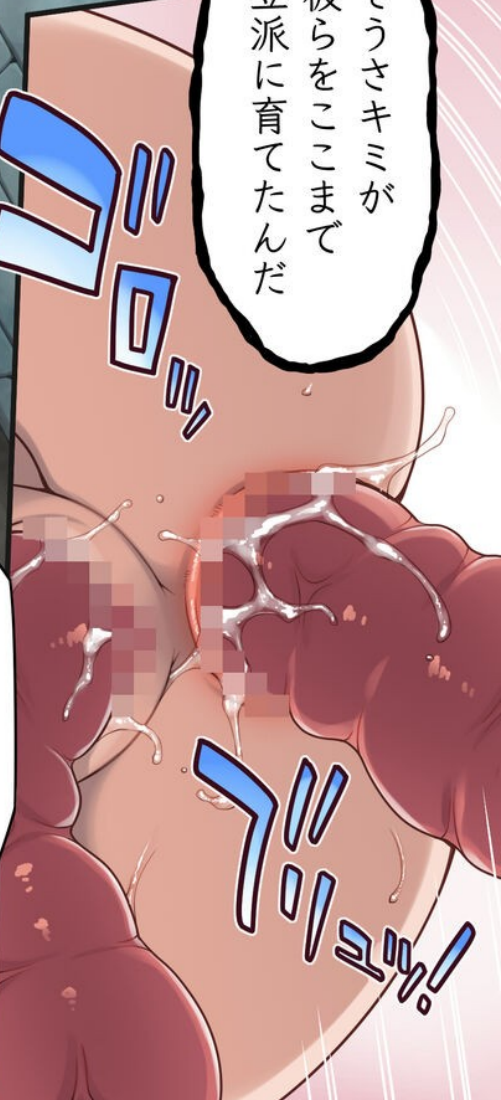
しゅ  
しゅごっつ  
何コレ…  
はっ、あぁっ…  
内側から…  
ズボズボ  
犯されてっつ

そうさキミが  
彼らをここまで  
立派に育てたんだ



これスゴい…  
今までの魔物  
なんかと…  
くらべられないよお  
気持ちよくて  
おかしく  
なりゆううっ…

アタシが…  
この子たちを…



気持ちいいのは  
当然だ

彼らはそのために  
成長したの  
だからね

アタシを  
気持ちよく  
するために…

うれしい…っ♡

ズルルル♡

ズルルル!!

もっともっと  
かきまわしてっ♡

アタシの中を  
ズボズボしてえっ♡

ははは  
喜んでもらえて  
光栄だ

んはぁ♡

ズルルル!!

ズルルル!!

ズルルル!!

でもいいのかな  
このままだと  
彼らは

君の身体から  
出ていって  
しまうよ

そんなの  
ダメえっ!

わたしの身体  
もっと壊して  
いいからっ…

んはぁ♡

ズルルル♡

ズルルル♡

出ていか  
ないでえっ！

もっと  
アタシの中で  
気持ちよくしてえっ！！

ぐはのあッ♡

ぐにいッ

ホラ…っ  
アタシの身体まだ  
広げられるからっ

ねじ込んで  
中に戻って…っ

ぐ…ぐ…ぐ…  
ぐ…ぐ…ぐ…

ぐッ

ぐッ

×  
×  
×

キッ！！

キッ…？

おおおおおおおっ♡

カッ  
カッ  
カッ

全部帰って  
きたあああっ♡

ボ  
ボ  
ボ

ぢ  
ぢ  
ぢ

ぢ  
ぢ  
ぢ

えっ…待って  
そこはっ…

違う…のおっ  
入れちゃダメな  
ところおおっ!

ス  
ス  
ス

ん  
ん  
ん

ス  
ス  
ス

なの…  
じ  
じ  
じ

キ  
キ  
キ

び  
び  
び



こんなのおかしいっ  
おかしい...  
の...っ！

んああああっ  
またアタシの中で  
増えていってるっ！

どうしてこんなに  
キモチいいの  
おおおおっ！！

ん...  
ズッ

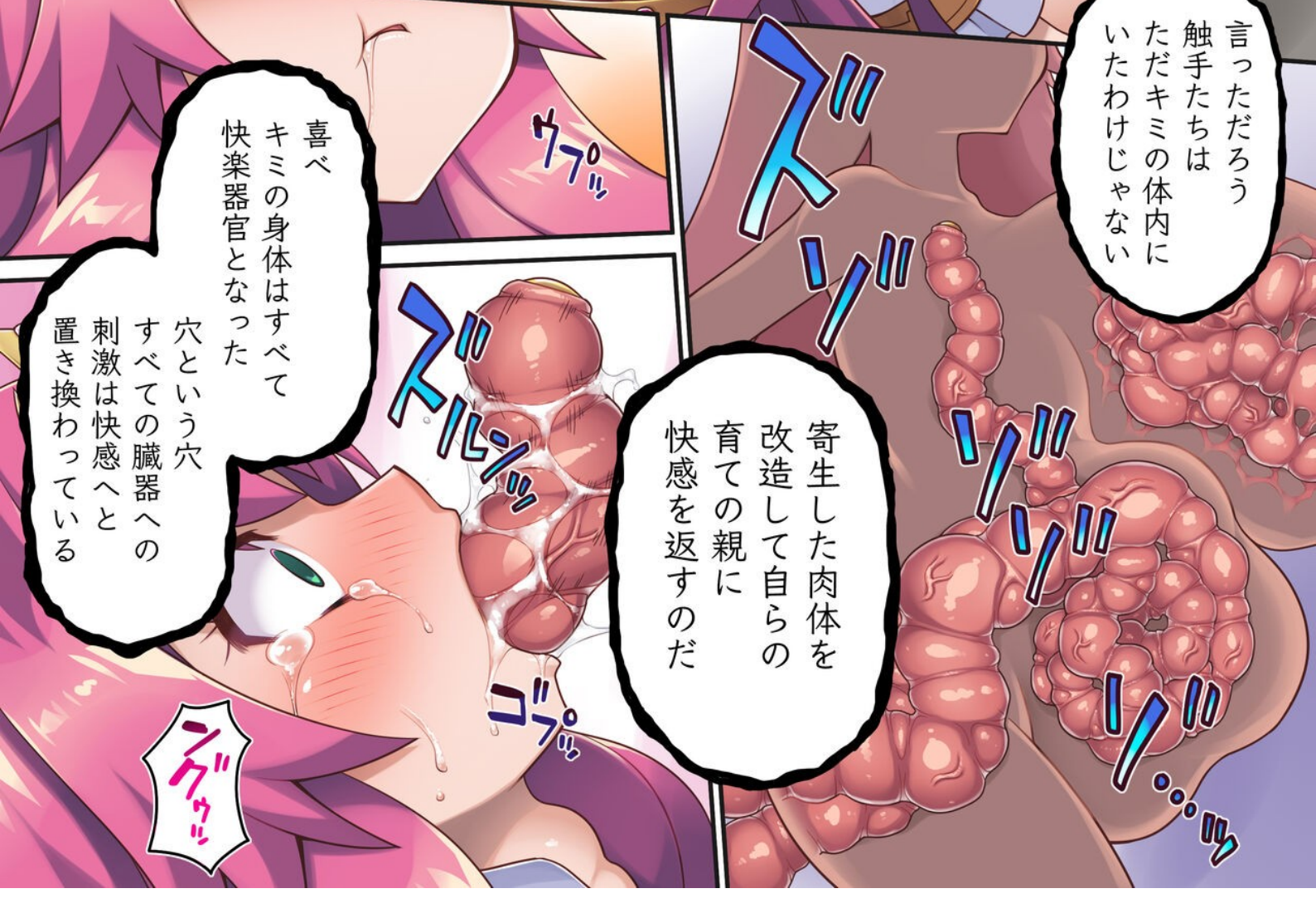
ん...  
ズッ

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ



言っただろう  
触手たちは  
ただキミの体内に  
いたわけじゃない

寄生した肉体を  
改造して自らの  
育ての親に  
快感を返すのだ

喜べ  
キミの身体はすべて  
快楽器官となった

穴という穴  
すべての臓器への  
刺激は快感へと  
置き換わっている

ズッ

ズッ

グッ

ズッ

ズッ

ズッ





